

自治連よなご

第48号

発行 米子市自治連合会
(事務局 米子市企画部市民自治推進課内)

平成27年(2015年)3月1日発行

編集 『自治連よなご』編集委員会

魅力いっぱい! 自治会活動!!

第7回米子福生東大凧揚げ大会

米子福生東大凧揚げ大会実行委員長 安井 賢

昨年の10月26日(日)に第7回米子福生東大凧揚げ大会を日野川運動公園で盛大に開催いたしました。

今年度は「舞い上がり 福生の空に凧いっぱい! 夢いっぱい!」をスローガンに午前中は、子凧の部で校区内の福生保育園児、福生東小学校児童や一般参加者による子凧揚げ大会を行いました。青空のもと風速2~3mとコンディションも良く約120枚もの子凧が大空高く舞い上がる姿は壮観で、子どもも大人も夢中になってグラウンドを走り回って大変楽しげでした。

午後からは大凧の部に移りました。今年の参加者は福生東公民館の「ひとづくり・まちづくり委員」の協力もあり、6自治会・福生東公民館・企業・団体から7チーム合わせて13チームの参加で合計13チームとなり、大会が大いに盛り上がりました。目玉の大凧「竜神2号」(40畳)は微風の悪コンディションのため、残念ながら

期待に添わない結果となりました。米子青果の女子部「チームふわり」の連凧100枚をはじめ、2畳凧・4畳凧・10畳凧等は大空に力強く優雅に舞い上がる姿は勇壮で感動を与えてくれました。この日は約500人もの参加があり、鮭で作った日野川鍋などを食べながら凧揚げを楽しんでいただいたと思います。今年も11月中旬に予定をしていますので是非、ご参加ください。お待ちしております。



原子力防災訓練に参加して

崎津六区自治会長 友森 篤夫

私達の自治会は、美保飛行場の南側に広がる地域で世帯数167世帯の農業地帯です。

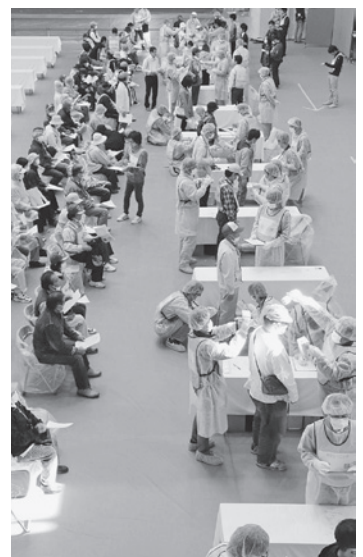
原発事故を想定しての訓練では多くの方が、福島原発が他人ごとではないと感じていて、積極的に訓練に参加していました。当日は、防災無線の放送で美保中学校に集合し人員確認後、ヨウ素の服用訓練、JR大篠津駅まで徒歩で避難、臨時列車で名和駅へ向かい運動公園の体育館でのスクリーニングを受けました。これは放射性物質が身体に付着しているかどうかを測定します。次は除染訓練です。人体や車両に付着した放射性物質を水または高圧水で洗い流し避難場所に汚染物質を持ち込まないためのもので、自衛隊や平井知事を始めとし、県市町村等の防災関係者多数の参加がありました。名和での訓練終了後には、淀江庁舎での防災研修に参加し東日本大震災の事例研修を受けました。

①「釜石の奇跡」小中学校の生徒3000人のほとんどが津波による被害を受けなかった。

②「石巻市立大川小学校」108人の生徒の内74人、10人の先生が亡くなった。

③避難を指導する方の多くが亡くなった。大災害が起きている時間帯では、災害弱者最優先の考え方が通用しない。

三つの事例から様々な災害について自助、共助、公助が有効に機能すれば被害は最小限になる例ではないかと感じました。私達は自分達の地域は自分達で守る目的で住民同士の絆の強化を図っています。



「自治会運営実態アンケート調査」

～安心・安全な住み良い地域づくりを目指して～

米子市自治連合会自治会運営拡充・活性化委員会

委員長 森川弘志

この度のアンケートは市内すべての自治会長さんにご協力をお願いし実施しました。自治会の現状を把握するとともに地域が抱える問題の洗い出しを行い、安心・安全で連帯感のある住み良い豊かな地域の実現と、健全な自治会運営が維持・展開できるよう検討していきたいと考えております。

本調査の実施にあたり、お忙しい中ご協力をいただきました多くの自治会長の皆様に感謝申し上げます。

◎調査の概要

調査対象：422自治会長

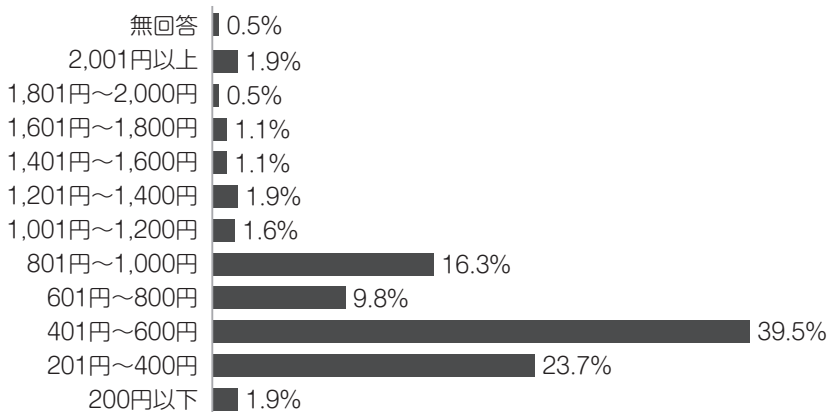
調査期間：平成26年9月

回収数：367自治会

回収率：87%

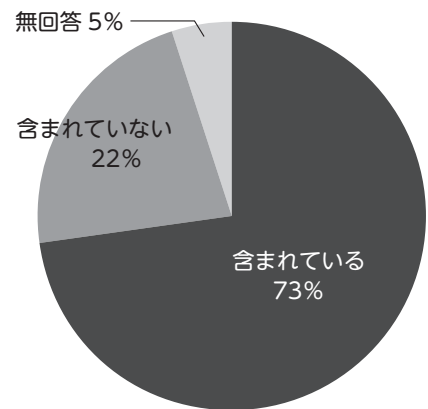
アンケートは自治会行事の多忙な9月を中心に約1ヶ月間行なわれ367自治会から回答を得た。回収率87%と予測以上の結果を得たことは自治会の関心度の高さを示すものである。

Q1 自治会費を教えてください。



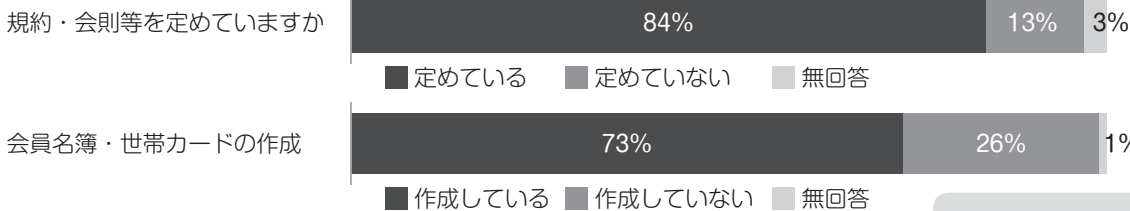
月額400円から800円の自治会が半数以上を占めている。又1,000円以上の自治会も多いが2,000円以上の自治会もあり差が目立った。

自治会費に募金が含まれていますか



募金が含まれている自治会は73%であった。

Q2 あなたの自治会では規約、会則等を定めていますか？



自治会規約等を定めている84%、名簿を作っている73%と規約等を作成している自治会が多い。

医療法人社団 やまもと

山本泌尿器クリニック 〒683-0008 米子市車尾南1-8-32
TEL:0859-31-8500 FAX:0859-31-8501
URL:http://www.aremec.com
休診日:水曜・日曜・祝祭日

新開山本クリニック 〒683-0004 米子市上福原7-2-17
TEL:0859-36-1200 FAX:0859-31-8555
URL:http://www.aremec.com/shinkai
休診日:日曜

グループホームやまもと 〒683-0009 米子市観音寺新町1-10-6
TEL:0859-37-6541 FAX:0859-37-6555

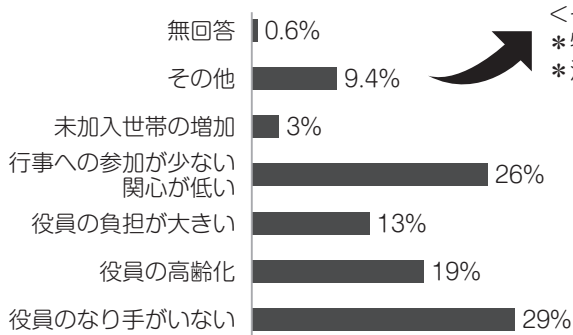
医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク

医療法人 **真誠会**
社会福祉法人

米子ホスピタウン (河崎) 弓浜ホスピタウン (大崎)
米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊
(西福原、富士見町) (和田町、富益町)

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 http://www.hospitown.or.jp/

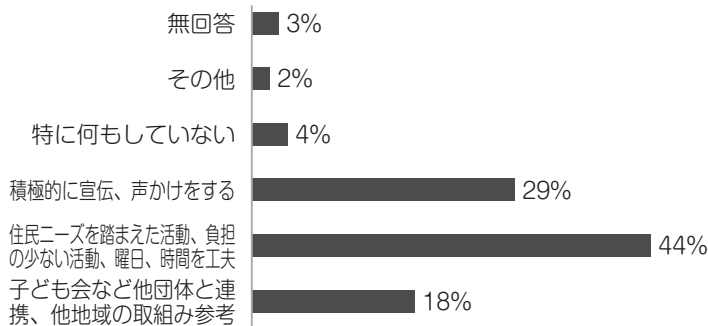
Q3 自治会活動の悩み、課題など苦労していることはなんですか？



<その他>
 *特に困ったことはない (1.9%) *活動拠点 (施設) がない (3.4%)
 *活動費の不足 (2.6%) *その他 (1.9%)

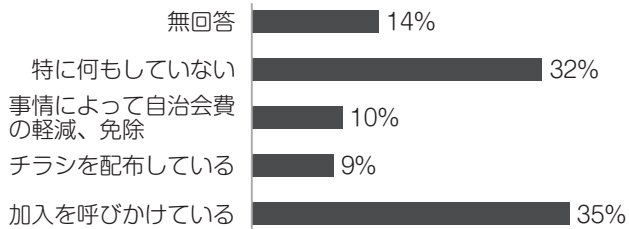
役員のなり手がいない、高齢化、負担が大きいなどを合わせると61%と役員の人材に苦労している様子が伺える。また、未加入世帯の増加や自治会活動に対する無関心が29%と高い。少子高齢化に伴い、自治会作業に支障が出る。空き家の増加、ゴミの分別、役員の数、仕事を持つ役員の活動が思うようにならないなど今後ますます高齢化していく自治会活動のあり方が問われそうだ。

Q4 課題を解決するには？……



子ども会や集合住宅と連携を図り活動の幅を広げる18%、活動の工夫する44%、声かけ・広報をする29%と自治会活動に工夫している様子が伺える。

Q5 未加入者世帯に対してどのようなことをしていますか？



声かけや独自でチラシの作成をして勧誘をしていたり、自治会費の軽減、役員の免除等をはかっていることがよく分った。半数以上の自治会が自治会員増加の努力をしている。

Q6 自治会で自慢できること！

取り組み	自治会数	内 容	取り組み	自治会数	内 容
伝承行事の継承	29	とんどさん、地蔵祭り、荒神さん、神楽等	清掃作業	13	毎月開催自治会4件
自主防災	20	防災訓練、自主防災	スポーツ大会	10	グラウンドゴルフ、ペタンク等
サロン	10	いきいきサロン、ビタミンサロン、ほかほかサロン、さわやかサロン等	レクリエーション	7	旅行、食事会等
祭り	13	夏祭り、盆踊り、桜まつり等	運動会	4	校区民運動会、町内運動会

自治会独自の活動のほか、宝など141件の自由記載があった。アイデアいっぱいの取り組み、活動もあれば将来への不安など様々な工夫が記載されていた。

「安心葬儀」
 “小さな”葬儀から
 “大きな”葬儀まで

ぴあべール

24時間 ご相談は、いつでもお気軽にどうぞ(無料)
 電話受付 ☎(0859)39-2222
 ぴあべール米子 ぴあべール・はまゆう
 米子市岡三柳103番地 米子市富益町2258番地1

豊かな地球を明日へ

環境グループ

代表 河本 弘文

米子市高島130-1
 ☎0859-27-3000

自治会長研修報告

米子市の地域づくりを考える

尚徳地区自治連合会長 小椋 康史

11月「手話」と「地域包括ケアを考える」集いが自治会長研修に位置づけされており参加しました。「手話」、趣旨は市民に手話が言語で、ろう者の人権尊重、違いを知り共生社会を築くため理解を深め合う目的です。鳥取県手話言語条例制定1年を迎え平井知事が手話を交え挨拶されました。森田忠正氏の当事者代表発表で、長い人生を辛く、悔しい思いをされながらも障害に負けず一生懸命頑張って生きてこられた姿、意志の強さに感銘し手話の普及を願った所です。また「地域包括」は厚労省勤務経験もある和光市保健福祉部長東内氏の講演でした。介護保険事業に熟知精通されており和光市のリーダーとして取組ながら全国で講演活動されています。27年度

は介護保険改正です。市民が受益を実感出来る社会保険制度、財産確保、在宅医療、権利と義務の意識づけ、健康寿命への取組み等々今後持続可能な介護保険事業をどうするか米子市にも直面した課題で参考になりました。



米子市自治連合会常任委員視察研修報告

米子市自治連合会研修委員長 杵築 俊朗

平成26年度の常任委員会視察研修は、地区を単位とした『自主防災組織』で先進的な取組を行い、地区（小学校区）単位の自主防災組織結成率100%の福山市と、中山間地において地域づくりを行なっている安芸高田市を11月17日、18日に訪問しました。

福山市では小学校区を単位として組織された自主防災



組織の結成の経過、必要性、概要、実際に災害が発生した時の発動事例、組織の運営、実際の訓練の様子などが映像を使って説明がありました。

安芸高田市では生桑振興会を視察しました。生桑振興会は、地域生活の要であるガソリンスタンドと日用品店舗が閉鎖されたため地域住民によって設立した有限会社桑田の庄により新たにガソリンスタンド、日用品店舗を開設し、石油製品（灯油・軽油）や日用品の配達のための車両を導入し、地域住民の生活を支援する取組が行われています。2市とも、人口規模、財政規模等が違うため、本市と簡単に比較することは難しいと思われませんが、地域をより良くしたいという思いは皆同じです。お互いの活動について、熱心に意見交換を行うことができました。

今回の研修で得たものが、安心・安全で豊かで住みやすい地域づくりの活動に、大いに役立つものと期待しています。

編集後記

昨年9月に自治会アンケートが行われました。自治会費等が自治会によって随分違ってあり、改めて地域の実情に違いがあることが分かりました。

例えば、転入者が多く、若い世代が多い自治会と昔から住んでる人が多く、高齢者の占める割合が多い自治会では、自治会へのニーズはおのずと違ってくると思います。私のところでは、地区住民全体で高齢者等生活弱者の見守りをする体制の整備を最優先の課題としていますし、また、若い世代が多いところでは、イベント等へ多くの住民の参加を促すなど、地域住民の一体感の醸成に努めておられるところもあります。

いずれにしても、自治会には、住民同士のコミュニケーションを高め、住民が安心して、楽しく生活ができるための地域づくりが求められていることがよく分かります。